

発行所

石川県保険医協会

金沢市尾張町1丁目9番11号  
〒920 尾張町レジデンス2F  
電話 (0762) 22-5373番  
発行人 平松昌司  
印刷所 ユーアイ印刷  
(会費月額 3,800円)

# 石川保険医新聞

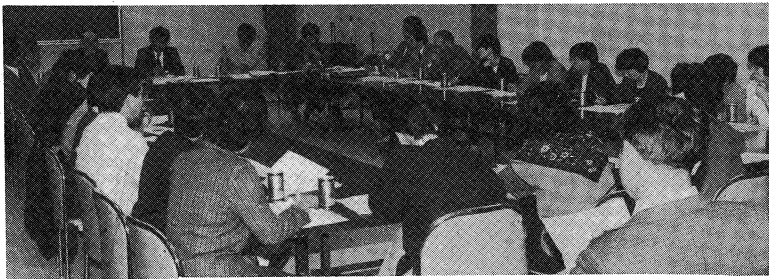
## ■主な記事■

- 2面 歯科口腔外科講演会
- 3面 経済学セミナー
- 4・5面 保団連医療交流集会
- 6・7面 北信越ブロック会議
- 8面 第90回健康なんでも相談

## 持論

十月二十四日より開かれた世界医師会総会でマニユアル・マセッドウ会長(ポルトガル)は、一九八〇年代は費用抑制が医療界の焦点であり、「医師はほとんどの国で批判されている」「常に医師が被告席に座らされている」事態にあり、この打開には全医師の団結が必要であると強調している。わが国でも従来からの政府の医療費抑制策により、病医院の経営の苦しきは限界に達しつつある。本年だけでも四月の診療報酬実質マイナス改定、八月には「開業医月収、サラリーマンの七・四

## 難しく考えず とにかく 取り組んでみよう



医師、看護婦ら31人が出席 10月30日 松任市文化会館

## 訪問看護に関する 初の懇談会を開催

高齢化社会の到来と共に在宅医療の充実が叫ばれている。保険医協会では、十月三十日、松任市文化会館にて十八医療機関から三十一人(医師十四人、看護婦十七人)が出席して、はじめて訪問看護に関する懇談会を開催した。

はじめに話題提供として、協会理事の安藤・井沢・西村各先生より自院における訪問看護の実践報告をしていただいた。

安藤先生は、自院の訪問看護五例について、対象者の状態、介護の実態、訪問看護の内容、問題点などをコンパクトな表にまとめられて報告された。

井沢先生は自院で使用している訪問看護記録、カルテなどのコピーを提示され、訪問看護の記録の具体例として解説していただいた。

西村先生にはやはり訪問看護記録の記載例と保険診療上の問題点、例として寝たきり老人処置指導管理料算定の不合理性などを解説していただいた。

続いて参加者全体での自由懇談に入った。参加医療機関の中で実際に訪問看護を実施しているのは八施設であった。

訪問看護の対象者の選択(在宅医療の可能な条件)は、なんとといっても介護者が居ることが絶対条件であるが、介護者も嫁・実子から最近では配偶者が多くなり高齢化しているとの報告がされた。

また、住居環境も重要な条件であるとの意見も出された。訪問看護の距離について、訪問看護の先生から「訪問看護をいいたいでほとんど自院より二〜三キロメートル以内、訪問看護の交通手段は自転車、自動車、タクシーなどであるが、昨今の交通事情を反映し事故が心配とか、金沢市内などでは駐車の問題などが指摘された。

訪問看護実施上の最大の問題として、注射、点滴、処置など診療行為ができないことが取り上げられたが、一方、訪問看護上での万一の医療事故の責任・賠償問題などの問題や、診療報酬上の改善要求とのからみもあり、協会として真剣に検討していかなければならぬ問題との認識を持った。

当県における訪問看護の保険審査上の問題点については、訪問看護については問題はあまりないが、訪問診療と内科再診料の兼ね合いで後者の回数が極端に多いと、過剰と判断されることがあるとの審査委員の先生からのコメントをいただいた。

次に、まだ訪問看護を実施していない医療機関の方々の意見がうかがったが、人手がない、法的・制度的に未整備などで時期尚早、老健施設看護婦からは採算性の問題などで躊躇しているとの発言があった。

★保険医協会としての対応  
懇談会での意見をふまえての対応を考えると、病院と診療所、医療機関と福祉行政などのネットワーク作りには協会は積極的にインシアティブをとること、訪問看護における診療報酬上の不合理性を改善すると同時に医療法の矛盾も改善し、医師、看護婦共安心して在宅医療を行える環境作りを要求していく必要性を痛感した。

★ともかく訪問看護に取り組んでみよう。  
今回の懇談会は訪問看護に関するさまざまな問題を取り上げ、論じ合うことが出来て極めて有意義であったと思う。訪問看護を実施するにあたって、現状では種々の困難を伴う。しかし当協会安藤理事が最後に述べられた「訪問看護を始め、それまで往診時ではほとんどしゃべらなかつた患者が、訪問看護時には驚異的にしゃべるようになり明るくなった。患者の生活の質(QOL)を高めるためにも、難しく考えず、とにかく訪問看護を始めよう」との発言は、今後、開業医レベルで訪問看護を広げていく上で貴重な意見と拝聴した次第である。

## 諸物価の上昇に見合う 診療報酬の改定を

十月二十四日より開かれた世界医師会総会でマニユアル・マセッドウ会長(ポルトガル)は、一九八〇年代は費用抑制が医療界の焦点であり、「医師はほとんどの国で批判されている」「常に医師が被告席に座らされている」事態にあり、この打開には全医師の団結が必要であると強調している。わが国でも従来からの政府の医療費抑制策により、病医院の経営の苦しきは限界に達しつつある。本年だけでも四月の診療報酬実質マイナス改定、八月には「開業医月収、サラリーマンの七・四

倍」報道による不信感の扇動。好況による従業員確保の困難、とくに看護婦不足は深刻であり、社会問題化(「朝日」十一月四日付)さえしている。

取得のための学会・講習会参加による診療時間の減少、参加費用の出費など、収入減と経費増の要因を枚挙すればいとまがない。一触即発の状態にあるペルシ

診療報酬という公定価格で大部分の収入を得ているわれわれ医療機関には一旦インフレが起きているにもかかわらず、行政当局には「国民の健康」を守っているわれわれ医療機関を維持・存続させる責務があると考えられ、物価、人件費などの変動に見合う診療報酬の改定を望むものである。

折しも保団連では、今国会で改定反対の運動と並行して、診療報酬問題も含めた医療改善を求めるハガキ要請運動を展開中である。会員諸氏の一層のご協力をお願いしたい。

加えて休日の増加による診療日数減、労働時間短縮に伴う従業員の増員、出生率低下と相俟って出産数、小児人口の減少、さらには「認定医」制度の単位

湾岸危機、ソ連の経済改革の難航など経済不安の恐れが十分に予測される。すでに一部の石油製品が値上げされ、経営圧迫の一因となっている。

## 医心凡話

春先からの気分爽快、それがあっという間に消え失せた。四連敗なんぞ、誰が予想したであろう?と今でも思っている。どこで間違ったのだろうか?シーズン中あれだけ頼もしかった投手陣が総崩れなんて、三連敗した時、去年の再現か?と淡い希望を抱いたが、ああ九連覇の時代が懐かしい。ここで何とかして欲しいと思った時、それが実現した。来年は初春から晩秋まで気分爽快になりたいものだ。しかし、ほかに気分をのめることがある。大きくはペルシヤ湾岸危機に對する日本政府の対応である。国連平和協力特別委員会と称して連日討議していたが、質問していた方も答えている方も何かピンとがずれているようだ。枝葉末節をほじくっているように感じてはかたがたない。平和憲法、これは世界に誇るべきことだ。しかし、それを盾にとつて、あれも駄目、これも駄目では世界に通用しないだろう。憲法第九条を堅持しながら世界に貢献する方法はいくらでもあるだろう。東西データが進む中、このような国際的な要求はますます増えるであろう。国民が納得する方法をじっくりと検討して欲しい。小さくは済生会病院の移転問題だ。突然(?)湧き上がった県立中央病院横への移転計画、現地では採算が合わないというが、見通しがあまく計画がずさんだ。行政が唱える地域医療計画はどこへ行ったのだろうか?

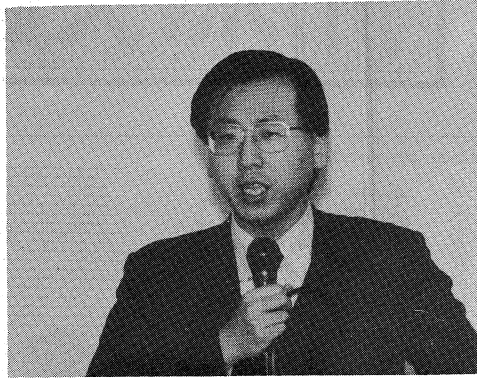
# 第3回 歯科口腔外科講演会

## 講演要旨

### 口腔領域各種病変の診断

講師 県立中央病院歯科口腔外科医長

坂下 英明 先生



講師の坂下英明先生

口腔外科シリーズも、いよいよ三回目になりました。今回は県立中央病院歯科口

腔外科の坂下英明先生を講師に招いて開かれました。今回のテーマは、①口腔粘膜疾患(粘膜の損傷および顔面神経麻痺を含む)、②顎嚢胞、③口腔領域の良性腫瘍、④口腔領域の悪性腫瘍、⑤唾液腺疾患(唾液腺腫瘍を含む)、⑥口腔領域の奇形(顎変形症を含み唇顎口蓋裂を除く)、⑦顎関節疾患(顎関節症を除く)です。

形成する白斑症は、手でぬぐっても簡単に剥がれないのが特徴である。また神経領域に起こる帯状疱疹は、三叉神経第二枝に好発し、帯状疱疹ウイルスが目に入った場合には失明することがあるので注意が必要である。

私たちがしばしば臨床で見かける歯肉増殖症は、ヒダントインが有名であるが、降圧剤であるニフェジピン、塩酸シルチアゼムなどで起こることがある。また、根管治療中に誤って粘膜や組織を、リマーなどで刺した時などは、その部位に膿瘍を形成したりすることがあるので抗生剤を投与した方がよいことがある。いずれにしても、治療しても二週間以上治癒しないものは生検、一カ月以上治癒しないものは精密検査が必要である。

②顎嚢胞は臨床では、歯根嚢胞と濾胞性嚢胞が発生頻度が高く、中でも歯根嚢胞は全体の四〇%を占めている。歯根嚢胞は摘出後原則として副形成はせず、腸骨やアパタイトで補填する。また濾胞性嚢胞は上顎上中部の過剰歯が原因になることがある。術後性上顎嚢胞では、神経麻痺、歯肉(頬部)の腫脹、歯肉頰移行部に手術痕が特徴であ



23人が集って開かれた第3回口腔外科講演会

10月27日 金沢都ホテル

## 理事會点描 相変わらず多忙なり

第9回理事会 10月16日 13人出席

秋も深まり、酔心自戒を没したか、十月十六日の理事会の集まりは少ない。出足がおそいのみか、も知れないが、協議事項に第二次医療法改正案の討論を期待していた当番議長としては、少々拍子抜けの思い。

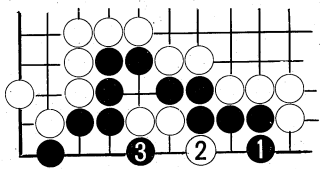
今週末の北信越ブロック会議で、わが協会の特徴的活動報告は、「老後問題を考える石川のつどい」への協力、院内新聞、月刊保連が読まれる工夫、食べ歩き会などを予定する。

医療福祉部は相変わらず多忙である。石川のつどいや医療福祉研究会などの外部団体への協力も大変だが、何よりも、福祉

(安藤)

## 囲碁解答

黒1が好手です。



り、診断は比較的容易であり、診断は比較的容易である。③良性腫瘍、エナメル上皮腫は下顎大臼歯部に多く、セッケンの泡状のX線吸収像が特徴である。また、まれな疾患であるが、顎骨性中心血管腫のX線像は、エナメル上皮腫のX線像と非

常に良く似ていて、鑑別診断はむずかしく、切開を加えた場合でも大出血を起し、容易に止血しないので注意が必要である。

④悪性腫瘍、舌癌は何よりも早期発見が重要であり、潰瘍が治癒しないものは、早期に生検すべきである。

⑤唾液腺腫瘍、多形性腺腫は唾液腺腫瘍の六〇〜六五%を占めている。また、口腔底が膨隆する疾患として腺様嚢胞癌は、ラヌーラとの鑑別診断が必要である。口腔外科領域においては病変の大きさや表面の性状が、必ずしも病理組織学的な悪性度とは一致しないという点であり、小腫瘍といえども切除した際には、病理組織学的に検討することが重要である。

(文責 菊地 司)

## 歯科会員のみなさまへ

保険医協会歯科部では、会員の先生方に役立つ有意義な企画をこれからもどんどん計画していきます。

先生方で、ご希望のテーマなどがありましたら、ぜひご連絡下さい。

お待ちしております。(歯科部)

## 矯正歯科講演会

- テーマ ①いつ、どのように矯正をするのか  
②床装置  
③機能的矯正装置 (FOK など)  
④チンキャップ
- 講師 金沢医科大学矯正歯科学教室  
(高田保之、西田明彦、出村昇、下村隆央各先生)
- とこき 11月24日(土)及び12月1日(土)  
午後5時～午後8時 (軽食が出来ます)
- ところ 金沢都ホテル 5階「蓬莱の間」
- 参加費 会員=無料 未入会員=1回3,000円

# 経済学セミナー〈第三回〉の報告

## 地域経済の変容と石川の産業

講師 金沢大学経済学部助教授(地域経済)

佐々木雅幸 先生



講師の佐々木雅幸先生

### オイルショックが 転機となって

①多国籍企業の進出にみられるように現代の国際化の広がりにより、経済活動はグローバル化(地球化)となっている。このため地域経済は国民経済を

第三回経済学セミナーは『地域経済の変容と石川の産業』と題して十月二十日、佐々木雅幸先生に講演していただいた。講演要旨は次のとおり。

こえて世界経済と密接不可分に結びついている。世界経済の動向は、いまやポストフォードイズムの時代である。「フォードイズム」とはアメリカのフォード自動車社の生産システムから名付けられたもので、不熟練労働が主体のマスプロダクションによる大量生産方式のことである。この方式は労働者の集中により巨大工場と大都市化現象をもたらした。ところが一九七二年のオイルショック後はフォードイズムの危機をもたらし、市場が縮少し、労働の非人間化が一層強くなり、生産性もダウ

③例えばイタリアのフィレンツェやポローニアは街並みも美しく、伝統的職人の集積した都市として発展している。職人の高い感性はこのような文化・景観

### 新しい クラフトプロ ダクション

④日本では、八十年代を通して企業規模の拡大と意志決定や頭脳部門の集中など東京への一極集中がすすんだ。一方、金沢はどうか。繊維産業と繊維工業にみられる伝統的な技能・技術にハイテク、ハイタッチが融合して「新しいクラフト」を生み出し、中規模企業の都市として生き残れる可能性がある。地元本社があり、自律した意志決定のできる経済的機能を持つた自律性の高い街である。

⑤都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

⑥都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

⑦都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

②ここに七十年代までのフォードイズムを超える新しい潮流が台頭してきた。つまり、労働を人間的なものに回帰しなければ社会的生産性もアップしないということである。生産様式はマスプロから「新しいクラフトプロダクション」(ハイテクを応用した工芸的生産様式)に転換されようとしており、企業や地域に新しい動きが生まれている。

③例えばイタリアのフィレンツェやポローニアは街並みも美しく、伝統的職人の集積した都市として発展している。職人の高い感性はこのような文化・景観

④日本では、八十年代を通して企業規模の拡大と意志決定や頭脳部門の集中など東京への一極集中がすすんだ。一方、金沢はどうか。繊維産業と繊維工業にみられる伝統的な技能・技術にハイテク、ハイタッチが融合して「新しいクラフト」を生み出し、中規模企業の都市として生き残れる可能性がある。地元本社があり、自律した意志決定のできる経済的機能を持つた自律性の高い街である。

### 内発型発展の 都市づくりとは

⑤都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

### 労働における 非人間性 からの回復

⑥都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

⑦都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

ンするという経済危機を迎えた。

⑧都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

⑨都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

### 時代の風を 敏感に つかむこと

⑩都市は経済活動だけで評価してはならない。文化と経済の両輪が相まって発展している都市は素晴らしい。イタリアやドイツの都市がその典型であろう。金沢は「国際的文化産業都市」を目標としているが、そのためには伝統ある金沢の街並みを残すこと、景観は都市の文化性の象徴であり、活力の土台である。このような時代の風土時代認識を敏感に掴むことがいま重要になっていく。

の中から生まれている。都市経済の中軸は二十人以下の職人で組織されている「職人企業」が担っており、協同組合も組織されている。このようにポストフォードイズムでは生産様式は新しいクラフトプロダクション、企業と都市は中規模のところが軸となっており、生産一企業一地域が新しいシステムとして一体となって発展している。さらにM E革命のもとで、新しい技術、新しいニーズ、新しい市場条件への対応によって、新しいクラフトプロダクションが復活しつつある。

ぜび、11月出席下さい  
今日、医院経営に世界経済や地域経済の構造、動向を理解し、その潮流を予測することが大切です。歯の話も胃腸の話もまったく出てこない講演ですが、日本の頭脳がやさしく経済を語ります。どう生かすかはわれわれの応用力次第です。勉学に燃えた若き学生時代をいま一度よみがえらせましょう。

# 経済学公開セミナー

## 今後の開催要領

第5回

### 「民活」路線と医療・福祉の再編

- 「民活」路線と国民生活の変容
- 医療制度の再編と医療産業
- 福祉制度の再編とシルバー産業

〈講師〉金沢大学経済学部助教授(社会保障論) 横山 寿一 先生

〈とき〉12月15日(土) 午後6時～午後8時半

第6回

### 医療経営をめぐる環境変化とマーケティング

- 病医院をとりまく経営環境
- 自院の経営分析
- 経営管理体制のあり方

〈講師〉石川県保険医協会顧問税理士 中村 栄希 先生

〈とき〉1月19日(土) 午後6時～午後8時半

会場 金沢都ホテル/5F「蓬莱(ほうらい)の間」

日時▶ 8月より毎月1回、土曜日に開催(6回シリーズ)

- ・午後6時～午後7時……………講演
- ・午後7時～午後7時半……………休憩(サンドイッチとコーヒー)
- ・午後7時半～午後8時……………講演
- ・午後8時～午後8時半……………質疑応答

参加対象▶ 会員・家族・事務長

参加費▶ (1回につき。資料代・夕食代含む)  
 会員医療機関=1,000円  
 未入会員 =3,000円

お申し込み▶ 下記まで電話にてご連絡下さい。  
 0762-22-5373

(事務局 神田)

# '90第5回保団連医療研究集会

## メインテーマ

## 学齡期シンドロームを考える

### 石川から二演題と、院内新聞のポスターセッションを発表

十月二十七日、二十八日の両日、大阪国際交流センターで、全国から九百九人の医師、歯科医師、スタッフ、事務局員、そして多くの学校関係者が集い、「保団連第五回医療研究集会」が開かれた。

第一線医療に取り組む、いわば開業医の学会として定着したこの医療研究集会、今年のテーマは「学齡期シンドロームを考える」で、学校養護教諭や一般の主婦の参加が目立ったのが今年の特徴である。

子供たちの健康が脅かされているという危機感が広がる今日でありながら、医師、学校関係者、保健担当者、親らが一堂に会する機会は今まで皆無だったと言っても過言ではない。そういう意味で、今回のこの集いは時宜を得た企画であり、今後、子供たちの健康を守る立場の様々な人たちの連携づくりの突破口になるものと大きな期待が寄せられた。

石川協会からは高松弘明副会長が、「はだし運動の効用——学校医の立場から——」、そして城北病院内科の岩瀬俊郎先生が「民医連における診療所長の経験から」と題する演題報告を、さらに当協会が試験的に取り組んでいる院内新聞のポスターセッションを行った。当協会からの一般参加として医師、歯科医師、スタッフ、事務局員十三人が参加した。

高松副会長宅には、県外から早くも「先生の発表をもっと詳しく教えて欲しい」「ぜひ、同じ運動に取り組む学校医が集まる機会を持ちたい」との電話が入るなどの反響が寄せられている。

学齡期シンドロームでの共通した意見は、教職員や父兄と、学校医とのコミュニケーションが極めて取りにくいということであった。つまり、学校保健の推進にとって最も基本的なことが、実は最大の障害になっている現状が今回浮き彫りにされたのである。

今後、学校医も法令で定められた学校業務以外に、しばしば学校に足を運ぶ必要があるのではなからうか。そして今後、医師のみならず、子供の保健に関わるすべての人たちが一堂に会せる機会が広がることを願って止まない。

以下、石川県からの参加者の印象記、および高松副会長の発表原稿を掲載する。

### 発表原稿

## はだし運動の効用

### 学校医の立場から

高松 弘明 (金沢市・内科)

### 目的

昭和五十二年六月中旬の定期身体検査で、室内に充滿した児童のズック靴(以後ズックと略)の臭気に困り、また白く浮腫状に蒸れた足をみたのが、このはだし運動を始めたきっかけである。一方、背筋力低下、アレルギー、自律神経症状な

### 準備と方法

金沢市立栗崎小学校は金沢市の北端にあり、内灘砂丘をはさんだ日本海を後にひかえ、校舎は新しい鉄筋コンクリート建て三階、運動場は砂が混じった土で、はだし運動を始めた五十二年には児童数八百四十一人(男四百十三人、女四百二

まで進めてきている。

はだしは原則として希望者とし、出来る児童には年間を通して許可している。

校舎内外の危険物除去は最も重視して行った。

◆各種調査について—運動の経過と効果を知るために、これまでの十三年間にアンケートを含めた各種の調査を行った。

アンケート調査—五十六年、六十一年に実施。対象・児童二、四、六年生男女総計一回目百二十九人、二回目四百五十一人、十四項目。父兄一回目十一人、二回目六十二人、五項目。卒業生二回目五十六人、四項目。転任教職員二回目十人、四項目。現教職員全員自由意見。

◆冬のしもやけ発生状況

◆年間欠席状況

◆足の指爪の形態

◆遠足による足の痛み

◆足の感染

◆スポーツテスト

◆その他

◆冬のしもやけ発生状況

◆年間欠席状況

◆足の指爪の形態

◆遠足による足の痛み

◆足の感染

◆スポーツテスト

◆その他

◆冬のしもやけ発生状況

◆年間欠席状況

◆足の指爪の形態

◆遠足による足の痛み

◆足の感染

◆スポーツテスト

◆その他

◆冬のしもやけ発生状況

◆年間欠席状況

◆足の指爪の形態

◆遠足による足の痛み

◆足の感染

◆スポーツテスト

◆その他

### 結果および考察

アンケート調査—児童のはだし率は、春夏秋冬が九〇%、冬でも男二十九%、女一二%で、はだしになって理由に、好きだ、気持ちよいらが圧倒的に多く、体に良いからが八〇%を占めた。六〇%の児童がはだしで体や足が強くなったと思っている。はだしを通した子供たちの健康感が定着しつつあり、足の重要性和健康を考える有力な動機付けとなっている。父兄、

はだしでは足の筋肉が硬く引き締まり、とくに指間筋、足底筋で著しい。逆にズックでは全体が浮腫状で柔らかく、皮膚とくに指間の蒸れが強い。爪の変形も両者の間で明らかな差がみられ、特に小さなズックでは指と爪に強い変形が起こることがある。

◆遠足による足の痛み—演者が同時に校医である他のズック校が、たまたま本校と同時に同距離(内灘砂丘十キロメートル)の遠足をを行ったところ、ズック校では百六十人中約百人が下肢の痛み、特にふくらはぎとアキレス腱の痛みを訴えた。しかし本校では八百人中痛みを訴え出た者はいなかった。

◆足の感染—足の怪我率は約五〇%あるが、現在まで破傷風を含めた足の感染は見られない。

◆スポーツテスト—六十年にスポーツテストを行い、五年生について金沢市の小学校二十二校の成績と比較した。項目は、五十メートル走、走り幅とび、ソフトボール投げ、シグザグドリブル、連続さかあがり、反復横とび、垂直とび、背筋力、伏臥上体そらし、立位体前屈である。この中で、正規分布検定で五十メートル走とソフトボール投げが五%の危険率で男女とも有意に本校が優れていた。

◆その他—当初の目的にはなかったのだが、児童による校舎内外の自主的な清掃がよく行われるようになり、窓ガラスなどの破損は

はだしでは足の筋肉が硬く引き締まり、とくに指間筋、足底筋で著しい。逆にズックでは全体が浮腫状で柔らかく、皮膚とくに指間の蒸れが強い。爪の変形も両者の間で明らかな差がみられ、特に小さなズックでは指と爪に強い変形が起こることがある。

◆遠足による足の痛み—演者が同時に校医である他のズック校が、たまたま本校と同時に同距離(内灘砂丘十キロメートル)の遠足をを行ったところ、ズック校では百六十人中約百人が下肢の痛み、特にふくらはぎとアキレス腱の痛みを訴えた。しかし本校では八百人中痛みを訴え出た者はいなかった。

◆足の感染—足の怪我率は約五〇%あるが、現在まで破傷風を含めた足の感染は見られない。

◆スポーツテスト—六十年にスポーツテストを行い、五年生について金沢市の小学校二十二校の成績と比較した。項目は、五十メートル走、走り幅とび、ソフトボール投げ、シグザグドリブル、連続さかあがり、反復横とび、垂直とび、背筋力、伏臥上体そらし、立位体前屈である。この中で、正規分布検定で五十メートル走とソフトボール投げが五%の危険率で男女とも有意に本校が優れていた。

◆その他—当初の目的にはなかったのだが、児童による校舎内外の自主的な清掃がよく行われるようになり、窓ガラスなどの破損は

(四面からのつづき)  
みられなくなった。

### まとめ

十三年間のはだし運動により、児童の自主的清掃、

健康感覚の育成、健康増進に対する動機づけ、教職員・父兄・養護教諭・校医間の学校保健に関する関心と交流の深まり、寒冷に対する心身の強化、靴による足指の蒸れや変形の防止、長距離歩行での下肢痛軽減、

五十メートル走の向上などに効果が認められた。

はだし運動は、児童はなによりも好んでおり、学校教育・学校保健にとって有用なものと考えられる。

以上

## 保団連でなければ できない多数の報告

杉山正彦(金沢市・健生病院小児科)

「学齢期シンドローム」小児科をやっているが、体力が弱くなっているが、ただ防衛体力が弱くなっているのが問題であると指摘され、意識的かつ国民的運動が必要であり、医師への期待を述べておられました。

日体大・正木教授による記念講演は長期間、全国的に子供の体格、運動テストを統計的に処理し(この処理法が巧妙)子供の体格は大きくなっているのに、体力は良くなっていないという「胸部の変形」について

ては、小生も理解不十分だったことがポスター・セッションを見て分かった次第です。

子供に関する分科会に出席して、(イ)乳歯には歯間空隙が必要なこと、(ロ)エンプツの持ち方に正しい方法は決まっていないうこと、(ハ)耳鼻科でも箱庭療法をしているところがあること、(ニ)脊椎側彎症は前彎の合併が多いのでX-P診断には注意が必要なこと、(ホ)病児保育所(重症でないが、伝染性などで登園出来ない子を一時的に預かる)が市の補助金で成功しているところがあること、などが頭に残りました。

## やりがいがある 診療所長

岩瀬俊郎(金沢市・城北病院内科)

診療所長とは、大変だが実にやりがいのある仕事である、というのがわずかな年であるが診療所長経験の実感である。

診療所長論について次の三点を検討した。

第一は管理者としての役割である。その際、診療所の医療方針を決めること、そして職員、地域の人々、福祉施設や自治体の人々とのつながりの重要性がある。

第二は臨床医としての役割である。

慢性疾患患者の管理は、病院の長所もあるが、同じように診療所の長所も忘れてはならない。

第三は知識人としての役割である。

医療の中心は大きくは、その地域における民主主義に規定されること。逆に医療の改善を通じての民主主義の前進が地域の民主化につながることで、その上での診療所の役割は大きい。



「はだし運動の効用—学校医の立場から—」を發表する高松弘明先生

食と健康について多くの討論を聞くことができた。今回は当院の職員六人も参加したので、その感想を記したい。

## 職員六人とともに 有意義な一日

上田良成(山中町・内科)

①健康を守るためには、食品の生産から私たちが口にするまでのすべての段階において、日本の伝統的な食文化を再認識する必要がある。

②社会が変化しなくては私たちの食生活の改善はできないと思っていたが、個人が理解したことを実践していくことにより、少しずつでも実行できるのではな

③学齢期シンドロームについて親としていかに認識不足であったかと反省させられた。その対処については、例えば鉛筆の持ち方ひとつにしても正しく持つということが大切で、毎日の基本的な生活習慣がおろそかにされてはいけないことを痛感した。

④最近、精神のおよび肉体的に不活発な子供が増えているが、その原因を単に生活環境の変化や親の過剰な期待のためのみとはとらえず、いかにしたら活発で、真に健康な子供に育てることができかを改めて考えさせられた。

⑤これを機会に毎日の生活を親と子供の両面から再点検して、子供にとってより良い生活とは何かを考えていきたい。

以上の如くであるが、非常に有意義な一日であった。



「民医連における診療所長の経験から」と題して、報告をする岩瀬俊郎先生



石川協会で試験発行中の院内新聞を読む参加者



たくさんの児童の健康に関する本が並べられた書籍コーナー

# 北信越ブロック会議

10月20日(土)・21日(日) シティホテルフクイ

## 各協会の進んだ活動の交流と 共通の運動課題について討議

### 北信越各協会から32人、石川から7人が参加

年二回、北信越ブロック五協会が持ち回りで開催している北信越ブロック会議は、今回で十八回目を迎えた。各協会の進んだ活動の交流や、共通の運動課題について討議し、そこでの収穫を各協会にフィードバックすることを目的に開催している。

今回の開催は福井県保険医協会が担当し、十月二十日(土)、二十一日(日)の両日、福井市内の福井シティホテルで開かれた。

初日は各協会医師、歯科医師、事務局員二十二人が出席し、午後六時三十分より、大阪大学医学部衛生学助教授の野村拓(のむら・たく)先生による「医療法改正、診療報酬、従業員問題」をテーマにした特別講演で始まった。引き続き懇親会が開かれ、石川県から参加した後藤田顧問(保団連常任幹事)、安藤理事、古谷歯科部員、杉野事務局員は、終始なごやかな雰囲気の中で、各協会からの参加者との交流を図った。

二十一日は午前九時三十分から医科、歯科に分かれて分科会が開かれた。当協会からは前日の参加者に加えて高松副会長、江守理事、大川事務局員が合流し、総勢三十二人の参加者がそれぞれの分科会討議に参加した。安藤、江守両理事から報告が寄せられたのでご紹介する。

### 特別講演

#### 医療法改正、診療報酬、従業員問題

師) 大阪大学医学部衛生学助教授  
講) 野村 拓 先生

#### 外へはみ出し

#### 内を切り捨てる 日本の医療政策

医療経済研究会会長でもあり、保団連とも深い関係にある野村先生を迎えて、われわれにとって目下、最も重要な関心事である表記テーマについて勉強会をも

ちました。その講義内容の要旨を報告し諸先生のご賢察を期待します。  
日本の医療政策は今、外へはみ出し、内を切り捨てるようになっている。国連平和協力法案を医療側からみれば、防衛医大出身者が自衛隊海外派遣の第一陣として出動するのは明らかであり(はみ出し法)、医療費削減を大前提とする第二次

まれている「特定機能病院」図がうかがえる。このことと「長期療養病床群」について解説を加えるが、そのほかの大部分の細則は政省令にまかせており、厚生省の権限を高める白紙委任は極めて要注意である。保険医のランク付けは、学会主導の専門医・認定医制を突破口にされる危険性がある

と考える。  
出来高払制は通減制強化と審査強化によって、定額制へ鳥追的に誘導する意

#### 国民医療費とパチンコ産業がどちらも二十兆円?

保団連、協会の運動として、診療報酬は「物」でなくて「らしさ」を評価させ

新潟、富山、石川、福井各協会より計十六人が参加。助言者は野村先生。保団連常任幹事は後藤田先生。

### 医科分科会

## 医療法改正案から組織づくりなどを討議

① 医療法改正案をめぐって  
② 診療報酬問題  
③ 従業員雇用問題  
④ 各県の特徴ある活動紹介  
⑤ 保険医団体の組織づくり  
◆ 討議と話題

#### 診療報酬について

① に関して。改正案がみえにくい、理事会で勉強中(石川)。専門医制の位置

#### 従業員の雇用問題について

③ に関して。従業員雇用冊子が大反響(富山)。准看学校の不振(福井)。など

#### 組織づくりについて

⑤ に関して。協会支部は作れるか(常任幹事)。会員数七〇〇、勤務医加入多し(富山)。新規開業は全員入会、医師会理事兼任の協会理事のメリット(石川)。若狭地域からの入会難(福井)。など



# 第18回

## 歯科分科会

### 医科への理解深めたい 歯科の諸問題

#### 賛同署名で 石川協会が

#### やや遅れ気味

歯科の分科会ではまず最初に、「診療報酬は正運動」の経過報告と今後の取り組み方の討論が始まった。賛同署名ハガキの回収状況は、新潟、福井、長野、富山がそれぞれ会員の九〇%、七

〇%、六〇%、五三%と積極的取り組み、石川県の二四%は、やや見劣りの結果であった。

また、未入会員における署名協力率も新潟四四%、長野三八%と報告され、石川の七%はお粗末な報告となった。

#### 運動推進に 大切な “集中力”

新潟、長野、富山で高い回収率を確保している理由は、歯科部員が積極的に会員、非会員に呼びかけを行っていること、事務局員の電話による呼びかけが功を奏していること、新潟においては会長提案により、歯科の診療報酬の問題は、もはや歯科だけの問題ではなく協会全体として取り組まねばならない「最重要課題」として位置づけ、他の活動を一時ストップして取り組んでいるという。この集中力は学ばべきものがあると思つた。

32人の医師、歯科医師、事務局員が集って開かれた第18回北信越ブロック会議——全体会——



#### 新潟、長野で 深刻化する 歯科医増

また、新潟、長野ではい

をはじめとするパラデンタルスタッフの不足問題について討議した。

#### 3Kが

#### 5Kに??

好景気の続く昨今、3Kから5K(きつい、汚い、危険、給料安い、休暇なし)といわれ、若い世代からは嫌われ、現在働いている人たちも離職していくという現状は深刻で、今後なんとかこれに歯止めをしないと私たちの将来はないという厳しい報告が相次いだ。

#### 医療では看護婦不足問題

は社会的にもある程度理解を得つつあるが、歯科のパラデンタルスタッフの不足問題についてはまだまだ理解が薄いように思われ、今後、各方面へ啓蒙していく必要があると思われた。

歯科衛生士会、歯科技士会とのコンタクトを取りながら、今回の「初診・再診料の当面五アップ」要求を実現することが、ひいては彼らスタッフの生活の保障や環境整備などの抜本的な改善につながるため、彼らとの一致協力のもとで運動を盛り上げていくことを申し合わせた。

#### 昼食時間も 惜しんで 討論

正午、昼食時間になったが、だれが口火を切ったわけでもなく「時間が惜しい」との全員の思いが一致し、自由討論という形で弁当を食べながらの意見交換が続いた。

#### 医科、歯科の 連携を さらに高めて

午後二時半からは全体会が始まった。医科、歯科双方の報告の

午後からは深刻化している歯科技士、歯科衛生士

「歯科は必殺技、歯医者は必殺技。歯医者は必殺技、歯医者は必殺技。歯医者は必殺技、歯医者は必殺技。」  
(小松市 勝木道光)

「日本の医療は大臣の理想を離れて、このままでは荒廃していくことでしょう。」  
(中島町 高沢 至)

「人手不足でもって、人件費が上昇、処置に要する材料(消費税を含む)費が上がり、初診時、再診時の処置が包括されている現状が置かれています。早急な歯科点数改定は、早急な改善を望みます。」  
(寺井町 庭田悟士)

「全人的医療をめざす観点から歯科初診時基本診療料および再診料は、当然医科と同額であるべきです。国民皆保険の現在、適正な保険診療が行われるためにも技術料重視の観点からも緊急是正を要望します。」  
(根上町 菊地皓一)

「歯科は必殺技、歯医者は必殺技。歯医者は必殺技、歯医者は必殺技。歯医者は必殺技、歯医者は必殺技。」  
(小松市 坂田豊栄)

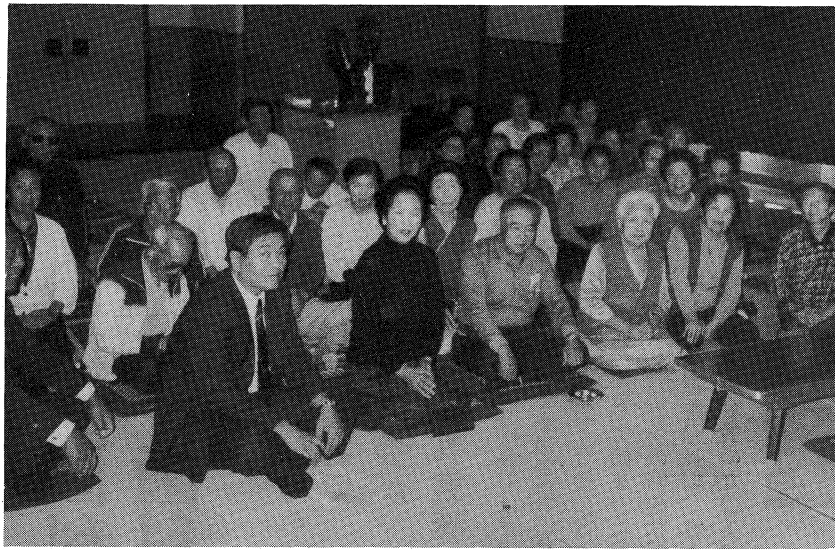
### 診療報酬改善を求める 要請ハガキに寄せられた意見

中で注目されたのは、保険生が多いのは、まだまだ相互のコミュニケーションが足りない結果であるとして、今後一層、交流を深める必要があるというまとめがなされたことであった。

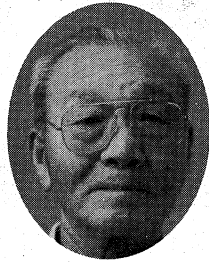
最後に会員の先生方とも、国民にとってより良い医療の方向に努力すべく、出席者一同、力強く宣言し、閉会となった。  
(文責 江守道子)

### 第90回 健康なんでも相談

## 2本の映画と講演 緑団地で開催



石川ヤクルト提供の映画を観る参加者



金川外二氏

緑恵寿会会長

金川外二

たいへん有意義  
あつという間の二時間

この度、西村先生（金沢市豊穂町）のお口添えにより、石川県保険医協会のご協力のもとに、みどり連合

町会共催で「健康なんでも相談」を開催する運びとなりました。  
日ごろ会員各位と共に健康な日々を送りたく健康管理についていろいろ思いを走らせておりましたことが実現致しました。ご協力下さいました各位に心から感謝しております。  
十月二十一日、みどり集会所にて多数の会員並びに町会の方々にお集り頂き、午後二時、みどり連合町会橋本佑二会長のあいさつに続き、石川ヤクルト販売株式会社提供の映画「愛されるお年寄りに」と「呆けにならないために」が上映されました。この二本の映画は共に老人にふさわしい映画でした。引き続き、西村先生の「お年寄りの健康管理」と題する講話は親切で誰にも分かりやすく話され、また、相談では各自の納得出来る丁寧なお答えに、次から次へと相談があり、与えられた時間の午後四時がすぐ経ってしまい、とても有意義な内容でした。

最後に、緑恵寿会高橋勝雄副会長の閉会の言葉、そして西村先生に盛大な拍手を送り、終了と致しました。

## 『医療・福祉研究』

1990年・第3号



B5版 103頁  
定価 1,000円  
発行 医療福祉問題研究会

読みごたえ大きい  
保健・医療・福祉の総合雑誌  
安藤良一（金沢市・内科）

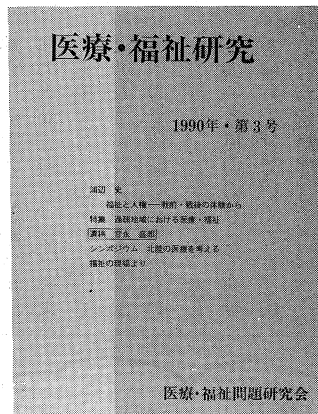
本誌の編集発行人である医療・福祉問題研究会（事務局||金大経済学部 社会保障論研究室）は、一九八六年に発足し、自らの研究・調査・シンポジウムなどをまとめて一九八八年に第一号を発刊

している。  
このたび第三号がでたので紹介する。  
特集に「過疎地域における医療・福祉」を取り上げ、研究会が昨年の夏に実施した医療福祉実態調査（珠洲市日置地区）を報告し、その結果から「石川県保健医療計画」は過疎・高齢化地域に重点をおくべきことを提言した。  
今年のシンポジウムでは、国立病院統廃合問題から、地域医療と医療供給計画について、研究者、国立病院職員、民間病院院長、住民の各立場からの報告と討論を深めている。

注目すべき論文として、昨年十二月二十三日、交通事故で急死された故宮永盛郎医師の遺稿が掲載された。「過疎地の医療からの考察」と題し、公立能登総合病院長として僻地中核病院の包括的地域医療と在宅医療はいかにあるべきかを問題提起した貴重な原稿で、ぜひ読んでいただきたい。  
そのほか、主な目次では、あはき師の現状、福祉現場より、福祉と人権（浦辺史）、外人労働者のケースなどがあって、非常に読みごたえのある保健・医療・福祉の総合雑誌である。

# 新刊案内

## 『第9回老後問題を考える 石川のつどい報告集』



B5版 78頁  
定価 500円  
発行 老後問題を考える石川のつどい

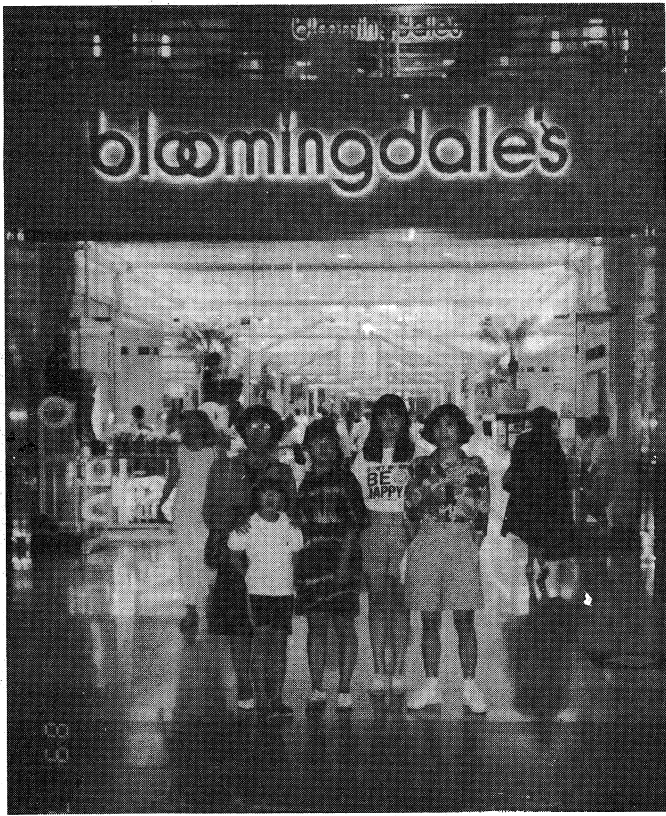
老後と豊かさを考える  
貴重な記録

金沢大学経済学部助教授  
横山寿一

老いは全ての人間に平等に訪れる。だが、安んずる老後を迎えることのできる人が我が国にどれほどいるだろうか。身を粉にして働き続け、国富の増大に貢献してきた後に待ち受けているのが底知れぬ不安な老後とは。「高齢期を生き生きと豊かに生きたい」との願いは、こうした現実を前にいよいよ切実さを増しつつある。では、本当の豊かさとは何か、全ての国民が平等に豊かな老後を迎えるために何が求められているか。本年九月三十日、奥能登・門前町で開かれた『第九回老後問題を考える石川のつどい』を収録したこの冊子は、過疎・高齢化の現実からこの問いに正面から切り込んでいる。  
過疎地の持つ困難さと豊かさ、この両面を見ずえながら、生命、健康の保持を第一義とした地域づくりの重要性が、都市と農村、行政と住民など広い視野から語られ、多くの示唆を与えてくれる。老後と豊かさを考える貴重な記録として、心から推薦したい。

この本のお申し込みは  
保険医協会までどうぞ  
☎ 〇七六二二二一五三七三





ニューヨークのブルーミング デールズの前で  
今回の旅行はお母様(左)も一緒に

# 江守道子 アメリカ訪問記 シリーズ 10

## 二度目の旅行に そして帰国

江守道子 (金沢市・歯科)

### アイオワから シカゴへ

私たち一家は帰国にあたり、七月上旬から約二週間の予定で二回目の旅、カナダのナイアガラからニューヨーク、ワシントンへと出発した。  
そのころ、私たちの帰国と引越しの手伝いを兼ね、母が日本から訪米していた。母は「鬼蓄米英」の教育の中にあって英語は全く駄目。「聞くのも、読むのも、話すことも出来ない。これじ

や人間らしい生活は出来な  
いわ」という言葉に思わず  
同情してしまった。  
アイオワを出発してま  
シカゴに到着。私にとつて  
アメリカの東海岸、ナイア  
ガラは二度目のせいか感動  
はやや薄れていたものの、  
それでもミシシガ湖に華や  
かに浮かぶヨットやモータ  
ーボートを再び見たとき、  
改めてアメリカの豊かさを  
知った。ここでは私の好き  
な美術館めぐりをし、素晴  
らしい絵画や出土品に、し  
ばし目と心の保養をした。  
そしてシカゴから北東に約  
三百キロメートル、主人の

### しばし感動 カナダの ナイアガラ

その後、国境を越え、カナダのナイアガラに着いた。子供たちや母は、やはり国際的に有名なナイアガラの滝を見てしばし感動していた。大きな水しぶきは遠く離れた川岸にまで飛び、水びたしだった。ただし、有名地につきものの物価高と待遇の悪いホテルにいや気がし、三泊の予定を二泊に、金沢市の姉妹都市、バツファローを通りぬけ、ニューヨークへと向かった。

### 日本人が 目につく街 ニューヨーク

ニューヨークは東京と同じく二十四時間フル回転の国際都市である。ただし東京と違い、町は汚れ、多民族が集まってきており、今やホームレス、麻薬、エイ

### ブッシュ大統領に 会いに(?) ホワイトハウスへ

翌日はワシントンへ。常に世界の注目を浴び、その動向が注視されるアメリカ大統領府ホワイトハウスを訪れた。ブッシュ大統領には残念ながら会えなかったが、子供たちはすっかりその気になっていた。国立アーリントン墓地や、リンカーンメモリアルを見学し、ポトマック河畔で、ゆったり昼食をとった。首都ワシントンでも、アメリカの大都市では、ごく当たり前だが、表通りの華麗さとは裏腹に、一たび裏通りに入ると実に汚い。私の泊まったホテルの窓の外には、高いフェンスが張りめぐらされ、改めて日本の治安の良さを思い知らされた。

### 自由の鐘響く フィラデルフィア

ニューヨークをあとにして、一七七五年、アメリカがイギリスからの独立を決定した会議が行われたフィラデルフィアに到着。この地に始めて自由の鐘(Bell)が鳴り響き、

### アイオワへの 帰路、 ゲティスバーグへ

翌日からアイオワへの帰路に着いた。途中、南北戦争の激戦地であるゲティスバーグに寄った。北軍勝利の後、リンカーン大統領が「人民の人民による人民のための政治」を宣言した場所として有名だ。彼はその後、劇場で射殺されたが、自由とは常に数多くの犠牲

### そして 帰国……

最後に世界一大きい子供博物館を見るために、インディアナポリスを訪れた。子供たちは恐竜の骨を触ったり、ゲームに興じたりと大喜びだった。そして末の娘は通訳として、母と一緒に一足先に日本に帰った。

## 在宅患者の作業療法講習会

■テーマ 在宅患者の作業療法の実践

■講師 石川県八田ホーム作業療法士

辻 郁 先生

■とき 11月28日(水) および 12月12日(水)  
開催時間はいずれも午後7時～午後9時

■ところ 金沢都ホテル 5階「能登の間」  
(金沢駅前 ☎0762-31-2202番)

○参加申し込みは事前に電話でご連絡下さい。

■主催 石川県保険医協会

☎(0762) 22-5373

が伴う尊いものであること、平和ボケといわれる私たち日本人はしっかり考えなければならぬと思う。

主人は研究のために引き続き一年間残ったが、次女も本人の強い希望で、半年間残ることになった。半年後に日本の高校受験を控えた長女もアメリカでの高校生生活を望んでいたが、日本人としてのしっかりした基礎教育を受けた後に再び留学するということが納得した。主人と次女の二人きりの生活に多少の不安を覚えながら、自己主張するまでに成長した彼女を信頼し、私と長女はシカゴ国際空港から成田へと機上の人となった。

(つづく)

栗野利雄先生の  
記念碑めぐり [9]

腰巻地蔵  
(富来町・福浦)



腰巻地蔵と栗野先生

能登の福浦の腰巻地蔵は  
けさの出船をまた止めた

「能登の福浦の腰巻地蔵はけさの出船をまた止めた」。野口雨情の歌碑は、能登外浦の浜辺に建つ。福浦のお女郎衆は女ながら、その念力は晴天に雨を降らせ、遠い昔日の海運を左右した節がある。能登の富来町福浦港は、荒波立つ日本海に向かう外浦にあり、奈良朝時代、渤海国から使節を迎え入れた古い歴史がある。「日本一古い灯台」は、全国からの観光客を誘っている。ここから南西へ二百メートル、港湾から五百メートルの地点の松林の中に、野口雨情の歌碑に伴われて腰巻地蔵が祭られている。磯馴れの松と岸壁の彼

方には、赤住(あかずみ)の原発施設の一部が海に浮かび、その風景は新旧の彩を添えて、何か今昔を感じさせる。地蔵前にて、私のあるパフォーマンスが祟ってか、富来の「日本一長いベンチ」にさしかかったころには、美湾の浜も一転黒雲が覆い、またたき間に豪雨になり、午後からの取材は止むなくキャンセルとなった。福浦は天然の良港であり、北前船の寄港地であった。徳川幕府の末期には、鎖国と封建制度の下で壮大な夢と希望を海に求めた北陸衆が、遂には日本の政治を左右するまでに成長し、明治末期まで繁栄しつづけた。また、

航海術の未発達時代の風待ち避難港でもあった。岬の丘の上には、福浦海運の父、神戸三次郎氏の銅像が、遙か北辺を睨んで立っている。安宅港から船積みされた小松絹を、日本海(西廻り航路)に乗って津軽海峡へ、そして黒潮躍る太平洋(東廻り航路)で江戸に向かう、北前船絹の道である。その船底板一枚の下は奈落、命を賭けた男一匹度胸の晴姿を

迎えたのが、福浦港のお女郎衆である。一夜の契りに結ばれて、もう一夜と望んで得られなかった願いをかなえてくれたのは、ほかでもなく野口雨情が詠む腰巻地蔵尊であった。女の腰巻を被った地蔵は怒り、海は荒れて船出を止めた。遊女の深情と船方衆の心意気に支えられて、今なお、お地蔵さんは赤頭布を被りつづけるのである。

秋の食べ歩き会〈報告〉

フランス料理の店

ラ・シャンタル

金沢市平和町2-9-22  
TEL (0762) 45-4159



十一人の参加者で開かれた秋の食べ歩き会 (10月23日)

楽しい会話とおいしい料理  
ぜひ、また参加したい

千田 恭恵 (金沢市・歯科)

十月二十三日、少し雨のバラつく肌寒い夜、恒例の食べ歩き会が開かれました。今回は、フランス料理の、「ラ・シャンタル」が会場です。「ラ・シャンタル」は、平和町の市営住宅の裏手の斜面にあり、細く真つ暗な道を入って行き、心細く見えたところに、お店の灯が入ると、また、その小ぢんまりとした暖かい雰囲気になんか安心する、ゲルメの方には

- 。車エビの春巻風
- 。赤ピーマンのシャレー
- 。能登松茸スープのパイ
- 。皮包み焼き
- 。赤ワインのかき氷
- 。活・伊勢エビのオマール

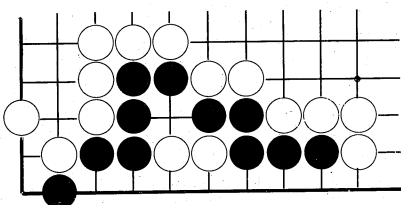
知られたお店です。さて、メニューは、本場のフランスで修業された、オーナーシェフの點田さんが厳選された素材で料理された品ばかりで、次の通りです。

ルエビソース  
。サラダ  
。オレンジリキュールの  
。ムースカカオ風味  
。パン、コーヒー  
特にめずらしかったのはオードブルの赤ピーマンのシャレーベツトで、(赤ピーマンはとて高価だそうです)ピーマンとは思えないまるやかな味でした。また、スープも、松茸のいい香りがするぜいたくな一品で、メインの伊勢エビも料理される前に生きているのを見せて頂きましたが、新鮮でまさに絶品でした。お口通しから、デザート、コーヒーまで、すべてにおいて満足させられる味ばかりでした。今回は、江守先生のお宅

ご案内

映画「安心して老いるために」  
の団体前売券があります  
ご希望の方は協会事務局までご連絡下さい。  
ところ 12月3日(月)昼・夜の部  
ところ 金沢市観光会館

碁  
出題者 向井富治 (金沢市・内科)  
六段



県医師会の大会で岡村利勝四段の対局に出来ました。黒番で生きて下さい。(解答は二面)